Ⅰ　実践

1　研究主題

偏見や差別をなくし，思いやりや助け合いの心をもって行動する児童の育成

（１）主題設定の理由

本校の教育目標は，「自ら学び心豊かでたくましい子どもの育成」で，めざす児童像は，①自ら考える子，②相手を思いやる子，③健康で根気強い子である。本校の児童の多くは明るく素直であるが，反面一部の児童は自己中心的な行動をとり，周囲とトラブルになることも少なくない。

そこで，学校の教育目標全体を通して，一人一人が相手を思いやる心の育成を図っていきたいと考え，本主題を設定した。

（２）研究の内容

ア　人権意識を高めるための職員研修の実施

イ　道徳教育の充実

ウ　豊かな体験活動の展開

2　実践内容

（１）人権意識を高めるための職員研修の実施【平成２３年７月２５日（月）実施】

ア　人権部員によるビデオ活用授業の事前研修

イ　「私たちの身の回りの人権」についての講演

外部講師を招いて，身の回りにおける様々な人権問題や学校としての取り組みについて研修を行った。（人権教育指導資料　第３２集を基に）

（２）道徳教育の充実

ア　人権に関するビデオを活用した学習（全学年）

７月に，人権に関するビデオを視聴し学習する機会を持った。

１・２年・・・「金色のクジラ」

３年・・・「名前・・・それは燃えるいのち」

４年・・・「プレゼント」

５年・・・「海のコウモリ」

６年・・・「友情のキックオフ」

イ　人権メッセージへの全員参加

道徳の時間を利用して，人権に関するビデオを視聴した。その後，人権について考える時間を持ち，メッセージ作りに取り組んだ。

全員がメッセージを考えることで，人権についての意識を高めることができた。また，代表者の作品を掲示することで人権についてより深く考えることができた。

（３）　豊かな体験活動の展開

ア　総合的な時間における体験学習（第４学年）

（ア）福祉体験

「田尻の思いやりをさがそう」の学習の一環として，地域のゲストティーチャーの協力を得て，シニア疑似体験・車いす・アイマスク・手話などをグループに分かれて体験し，高齢者や障害のある人々の大変さや苦労の他，どのような助けが必要かなどを考えた。

（イ）お年寄りとの交流

地域の介護老人施設（田尻が丘ヘルシーケア）を訪問し，歌やリコーダーなどを発表したり，お年寄りの方々一緒にお話をしたりして交流を図った。また，手作りのカレンダーや励ましの手紙を作成して届けた。

イ　異学年集団との交流（全学年）

（ア）青空タイム（イ）体力テスト（ウ）なわとび大会

（エ）運動会における応援団やダンス（オ）本の読み聞かせ

（カ）クラブや委員会活動（キ）集団一斉下校（ク）学校探検

（ケ）わくわくフェスティバル（コ）クリスマス交流会やツリー作り

3　成果

・発達段階に応じたビデオを活用した学習では，全校児童が日常生活における人権問題について考えることができた。
・人権メッセージの作成では，メッセージを書くために一人一人が人権について考えることができた。メッセージから人権意識の高まりを感じた。
・総合的な学習の時間では，福祉体験やお年寄りとの交流を通し，高齢者や体の不自由な方の生活を学んだり理解を深めたりすることができた。また，今後どのように接していくことが大切なのか，自分たちにできることは何かを学ぶよい機会となり，実践意欲の高まりがうかがえた。
・異学年交流では，高学年としての自覚を持ち，低・中学年に優しく面倒を見る姿が見られた。低・中学年の児童も，高学年の児童に感謝と親しみを持って接していた。休み時間も自主的に異学年で遊ぶ姿が多く見られた。
・職員研修は，一人一人を大切にする人権教育の基本理念の意識付けの高揚に役立てることができた。

Ⅱ　今後の課題

今後も，学校教育活動全体を通して人権教育を推進し，自己や他者を大切にする人権意識や人権感覚を育て，児童一人一人の意識の高揚や実践力の高揚を図っていきたい。系統的，計画的に活動し，教科領域の目標や内容を人権教育の視点から見つめ直し，どのような力をつけることができるか，明確にした上でそれぞれの活動を充実したものにしていきたい。

Ⅲ　人権コーナー設置の様子

※全校児童の憩いの場である「どしっこ広場」の一角に，人権コーナーを設置し，人権メッセージやビデオを活用した道徳の授業の感想，人権書道作品などを計画的に掲示している。